

がんばれ!!



新連携・地域資源活用・農商工連携

第53回

独自のコーティング技術と革新的なデザイン力で「空間創造メーカー」として飛躍!

独立行政法人中小企業基盤整備機構 経営支援部 ハンズオン支援統括室

大穂 裕嘉

紹介事例の概要

企業名	フィールド倶楽部株式会社
認定区分	新連携
認定事業名	ウレタンフォームへの特殊コーティング技術を活用した商品の開発・市場化事業
認定日	平成25年10月16日

◆ 革新的な造形・デザイン力と特許技術で活躍する北海道の注目企業

フィールド倶楽部株式会社（北海道北広島市、代表取締役見上真司）は、昭和63年の創業以来、屋外広告物や造形物の設計・製造・施工を手掛けている。景観や環境にも配慮した店舗づくりにこだわり、クライアントの想いを看板や造形によつて的確に表現することにチャレンジし続けている。その取組みとそれを支える企画力・技術力・施工力等が高く評価され、地元北海道の有名菓子メーカーや道内観光地のほか、日本を代表するテーマパークや全国展開のハンバーガーチェーン等で店舗造形を手掛けており、まさに“知る人ぞ知る”企業である。

また、「硬いものを柔らかくすることで、屋外広告物や造形物の可能性を上げたい」（見上社長）との思いから、看板・造形制作で培った塗装技術と造形技術を融合させて、ウレタン素材に直接塗料をコーティングする技術を編み出し、特許を取得している。本来、材質がスポンジ状のウレタンは塗料が染み込んでしまい、そのままでは塗装できない。そこで、原料に着色したり、金型に吹き付けたりして色付けするのが一般的であるが、これらはある程度の量産が

前提となる。さらに、通常の塗料は乾燥すると固くなり、ウレタンのような柔らかいものに直接塗布すると乾燥後ひび割れを起こす。同社では塗料や新たなケミカルの配合に試行錯誤を重ねた結果、弾性が非常に高く、ウレタンの柔らかさを維持しながら耐久力もある塗装が可能なコーティング技術を確立した。この技術を使うことでウレタンを成形してからコーティングすることにより、多様な形状の商品を短期間で簡単に1個から製造できる環境を実現した。

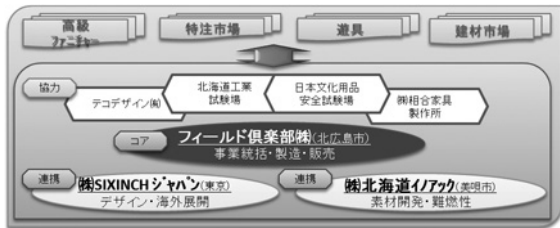


見上社長(左)と新連携事業の責任者の小笠原総務課長(右)

◆ 空間創造メーカーへの転身を目指して新連携事業にチャレンジ

同社では、北海道特有の季節による業務の集中化と受注の不安定さの解消が長年の課題となっており、これを解決するために、上記の特許技術とこれまで培ってきた経験や技術を生かしたウレタン造形物の製造・販売メーカーとしての成長を目指し、新連携事業に取り組むこととなった。同社がコア企業となって商品開発・製造・情報発信と事業全体の統括を行い、日本で初めてウレタンフォームの生産を開始した株式会社北海道イノアックが事業に最適なウレタン素材の開発を担当し、ベルギーのデザイン会

社と業務提携して設立した株式会社 sixinch. ジャパンがマーケティング戦略の立案や販売営業活動を担う形で連携体制を構築した。さらに、専用塗料の研究開発等の技術面では北海道立総合研究機構工場試験場、販路開拓面ではデザイナーのネットワークを持つテコデザイン有限会社との協力関係を整え、強力な事業推進体制で本連携事業に取り組んだ。



新連携事業の推進体制イメージ

本連携事業では、同社技術で特殊コーティングしたウレタンフォームを活用し、イス・遊具・壁面パネル等の商品を開発・販売している。商品には、①成形がウレタンを削るだけなのでどのようなデザインにも対応可能、②縫い目や継ぎ目が一切ないため防水性が極めて高い、③耐久性の高いコーティング技術で屋内外の環境を問わず使用可能、④柔軟性が高く軽量なので安全性や利便性が高いなど多くの利点がある。



大型ソファやソフトウォールパネル等の当社商品

新連携事業計画認定後の事業化への取組みでは、ブランドコンセプトを明確化するためのアドバイザー派遣やインテリア関連の展示会等への出展、関西圏での販路開拓を目的とした販路開拓コーディネーターの活用等、中小機構の支援策を効果的に活用している。資金面でも、北海道中小企業団体中央会の推薦を受けて、「中

央会推薦貸付制度」により商工中金から事業資金の融資を受けるなど、認定取得がプラスに働いている。公共施設や美術館、遊戯施設等への導入も進み、認定事業の売上也着実に拡大してきており、新事業へのチャレンジによる社員の成長、事業拡大に伴う新規採用による組織体制の整備等、企業の成長にも確実に繋がっている。見上社長は、「新連携事業に取り組んだことで、いろいろな人とのつながりが増え、そこから新たな人を紹介してもらうなど、多くの人に気かけ、声をかけてもらえるようになったことが何よりよかった」とも語っている。



美術館に導入された遊具

◆ 更なる飛躍に向けて

平成27年9月には、高い防水性と個々人に合わせて成形できる利点を生かし、車いす専用のクッションの開発・製造で「ものづくり・商業・サービス革新補助金」に採択された。すでに具体的な引き合いのある事業で、福祉・介護市場への市場拡大とともに、3D切削機の導入により生産性の向上も期待できる事業である。

また、この10月には「平成27年度北海道地方発明表彰 文部科学大臣発明奨励賞」(公益社団法人発明協会)を授与され、同社の技術により一層の注目が集まる状況となっている。

そして、見上社長の大きな決断とともに、今後の事業展開では、海外展開や福祉・介護市場向けの商品開発等をより一層強化する方向に舵を切る。世の中にありそうでなかった独自技術を生かし、常に新たなチャレンジを続ける同社の躍進に今後も注目したい。